
OB 通信

2008 年 No.5

(2008.7)

七大学対校陸上競技大会直前特別号

- ・全国七大学対校陸上競技大会は、8月2、3日に宮城陸上競技場にて開催
 - ・大会直前に、各種目の見どころをチェック！
-

～目次～

- ・全国七大学対校陸上競技大会 各種目の見どころ (2～8 ページ)
- ・副務からのお知らせ (9 ページ)
- ・七大学対校陸上競技大会 OB・OG 交歓会についてのお知らせ (10 ページ)
- ・編集後記 (10 ページ)

盛夏の候、会員の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

七大戦直前特別号となる今号では、全国七大学対校陸上競技大会(8/2,3)各種目の見どころ、七大学対校陸上競技大会 OB・OG 交歓会のご案内をお伝えいたします。

全国七大学対校陸上競技大会 各種目の見どころ

男子

100m

神林 啓人 (4)
佐藤 圭祐 (4)
富樫 宏朗 (2)

他大学の上位陣にはやや見劣りする。佐藤と、今季 400mH から短短に転向した神林が最終学年の意地を見せるか。また、今季自己ベストを 0"4 近く更新するなど成長著しい富樫にも期待。

200m

神林 啓人 (4)
佐藤 圭祐 (4)
鈴木 一輝 (1)

こちらにも上位陣にはやや水をあけられている。100m と同様に佐藤と神林の 4 年生コンビがどこまで食らいつくか。鈴木は、専門が走幅跳ということもあり、公認の記録は無いが、練習においては短距離パートを凌ぐ記録を出しており期待が持てる。

400m

田中 裕志 (4)
遠藤 智之 (2)
高林 佑輔 (1)

田中は、主将としてチームを活気づける走りが求められる。昨年同様得点を獲ってきて欲しい。ルーキー高林も決勝進出の可能性があり、次期エースとして頑張ってきて欲しい。遠藤はランキング的にやや厳しい位置にいますが、番狂わせを期待したい。

800m

寺川 亮 (4)
本間 亮太 (2)
田村 淳 (1)

エントリー段階では 1 分 57 秒を切っている選手が 5 人。そこに少し間を置いて 1 分 58 秒台を持つ選手が 7 人以上いる混戦になっている。

東北大の注目は本間。春先から好調を維持して自己記録を更新している。先日の宮城県選手権でも東北大歴代 14 位となる記録を出しており、入賞圏内に入ってきた。東北インカレや北大戦ではラストに競り負けるところを見せているが、優勝経験のある OB 小平が練習相手となり競り合いへの対策も積んでいる。混戦を抜け出すことができれば自己記録の更新、表彰台も見えてくると思われる。

ルーキーの田村は大学デビュー戦となった北大戦で 2 分を切る好走を見せた。練習でも本間と競り合うなど勢いがある。初の七大戦でプレッシャーもかかる中ではあるが、1

年生らしい伸び伸びとした走りができれば予選突破が見えてくる。

寺川は学業が多忙のため今季はあまり記録を残せていない。しかし、早朝からの練習を重ねて七大戦に対する準備は着々とできている。最後の七大戦で4年生として意地の走りに期待ができる。

1500m

相澤 直人 (4)
齋藤 純 (4)
早坂 達也 (2)

エントリーでは京大の小山(2)が橋の持つ大会記録に迫る自己記録を持っており一人群を抜いている。その下には4分前半の記録を持つ選手が多数おり入賞争いは激戦が予想される。

東北大はエースの齋藤が出場する。先日の福島県選手権で歴代7位、3分台に迫る記録を出しており表彰台を狙える。1500mの経験はあまり無いが、昨年の22大学対校戦でもこの種目で入賞を果たしておりラストの勝負強さには定評がある。有力選手の多くが5000mとの同時エントリーを控える中で牽制によるスローペースからのスパート合戦になれば優勝の可能性も出てくる。

相澤と早坂はそれぞれ一昨年と昨年、この種目に出場しており七大戦は2回目となる。激戦となった学内での選考レースを勝ち抜いてきただけにレースへの思いは強い。現時点では入賞の可能性は低い粘り強いレースと渾身のラストスパートができれば得点のチャンスはある。

5000m

齋藤 純 (4)
平 聖也 (3)
大場 直樹 (2)

エントリー時点では14分台の持ちタイムを持つ選手が9人という稀に見るレベルの高さである。しかし、毎年暑さのためスローなレース展開になるため持ち記録からは思いがけない順位となる選手が多く出る種目である。この種目でも京大の小山が唯一14分30秒台の記録を持っており頭一つ抜けた存在である。

東北大からは齋藤、大場の2大エースとPCの平が出場する。齋藤、大場ともに東北インカレにおいてこの種目で入賞しており勝負強さは折り紙つき。特に大場は持ちタイムこそ見劣りするが、インカレの10000mで表彰台、北大戦でも優勝と対校戦では今季万全の安定感を見せている。両エースともにレース後半での強力なスパート力を持っているため2人で表彰台を占める可能性が大いにある。東北大のトラック種目の中では最も期待できる種目の一つではないだろうか。

PCの平も今季ここまでは怪我などにより調子はいまひとつではあるが、持ち味のしぶとい走りで前の選手に着いていけば入賞が見えてくるだろう。

110mH

一ノ倉 聖 (2)
岩崎 辰哉 (2)

昨年4位の岩崎は昨年ほどのタイムは出していないが、最近の練習では復調の兆しが見えている。昨年並みのタイムを出せば表彰

台の可能性もある。一ノ倉は宮城県選でベストを更新、16"を切るなど上り調子であり、2人とも十分得点を狙える位置にいる。

400mH

加藤 聡 (4)
柴田 智弘 (3)
鈴木 貴幸 (2)

昨年 6 位の柴田が今季も好調。大舞台に自己ベストを更新してくる彼の走りに期待したい。加藤と鈴木は決勝進出にはやや遠い位置にいるが、110mH や 400m の後の種目ということもあり大きな番狂わせも起こりうる。

3000mSC

島田 健作 (4)
箭内 正輝 (2)

名大、阪大、京大に有力選手が 2 名ずつおり、この 6 人で入賞は決まりと見られている。この 6 人に割って入りそうな記録を持つのが東北大の 2 人である。

昨年は箭内が 1 年生ながら入賞したこの種目。2 年連続での出場となる箭内には当然、入賞の期待もかかる。しかし、ここに来て 4 年の島田が記録を伸ばしてきた。北大戦、宮城県選手権と立て続けに自己ベストを更新し、記録も東北大歴代 11 位、入賞の可能性が十分に持てるレベルにまできている。本人の口からも 4 年生として自覚からか優勝宣言が出るなど東北大中長距離パートの中では今、一番乗っている島田に大きな期待が集まる。

七大戦最初の種目となるこのレースで大

量得点を取り、チームを波に乗せることができれば総合優勝の可能性も高まる。時の人となりつつある島田にぜひ注目を。

4×100mR

宇田 侑平 (4)
神林 啓人 (4)
佐藤 圭祐 (4)
田中 裕志 (4)
富樫 宏朗 (2)
鈴木 一輝 (1)

昨年に比べ小粒のメンバーとなったが、走力が似通っているのでバトンパスで記録を伸ばしたいところ。他大学の取りこぼしを拾っていく、粘り強さが求められる。

4×400mR

神林 啓人 (4)
佐藤 圭祐 (4)
田中 裕志 (4)
柴田 智弘 (3)
遠藤 智之 (2)
高林 佑輔 (1)

最終種目。各校短距離陣の耐久力が試される。層の厚さで他大学に劣るため厳しい戦いが予想されるが、1 点でも多く獲れるように頑張ってもらいたい。

走高跳

岡本 聖司 (4)
藤澤 鐘吾 (4)
齋藤 達 (1)

岡本、藤澤に加えて、医学部陸上競技部の2mジャンパー齋藤を迎え入れた。

この春はまだまだ本調子とは言えなかったが、岡本は1m85、藤澤は1m86を跳んでいる。特に岡本は、正選手としての出場種目が走高跳だけということもあり、練習では専門的な練習を積極的に取り入れ、技術面の向上に努めてきた。本大会ではその成果が表れてくるはずである。

また、齋藤は受験時のブランクがあるものの、持ち前のセンスでどこまで跳んでくれるかが楽しみである。

棒高跳

橋本耕太郎 (4)
藤澤 鐘吾 (4)
白井 孝明 (3)

優勝候補の白井を始め、橋本、藤澤も調子を上げてきている。

白井は、東北インカレ、北大戦、宮城県選手権と3試合続けて4m50の記録を出し、非常に良い状態で安定してきている。七大戦では更なる大ジャンプで会場を沸かせることは間違いないだろう。

橋本は怪我に悩まされ、シーズン前半は練習も満足に出来ず、試合に出られない状況が続いていた。しかし、宮城県選手権では3m90の自己ベストタイを出し、自身と周囲の不安を押し退けた。

藤澤も、今シーズンに入って3m80と自己ベストを更新している。混成種目での器用さを持ち、日本選手権や全日本インカレの経験による調整力に優れ、そして何よりもナルシストである彼は、大舞台に強いのである。

走幅跳

藤澤 鐘吾 (4)
落合 裕規 (3)
鈴木 一輝 (1)

今シーズンに入ってから自己新が連発した層の厚い種目である。

落合は、東北インカレ、宮城県選手権と2連発の自己新をマークし、好調さをアピールしている。

藤澤、鈴木は今シーズン、それぞれ6m97、6m85を跳んでいる。両者共に、昨シーズンは7mを越えているので、七大戦本番までに上手く調整して2人揃って7mジャンプを見せて欲しい。

三段跳

藤澤 鐘吾 (4)
瀧澤 翔太 (2)
齋藤 達 (1)

藤澤、瀧澤、齋藤と14mジャンパーを揃えた。しかし、今シーズンはまだ14m越えはなく、藤澤が13m80、瀧澤が13m44にとどまっている。インターハイ選手3人組ということもあり、その経験から得られた調整力でしっかりと本番に合わせてきてくれるだろう。

砲丸投

菊地 晃一 (4)
藤澤 鐘吾 (4)
今泉 卓真 (3)

昨年優勝の今泉の二連覇は堅い。それに続

く藤澤、菊地も今期は 11m 台の記録を出しており、ハマれば 2 人とも今泉の二連覇を防ぐ可能性もあり、表彰台独占も期待できる。

泣きさせた落合の活躍に期待したい。

円盤投

菊地 晃一 (4)
藤澤 鐘吾 (4)
今泉 卓真 (3)

ケガから復帰した菊地と昨年優勝の今泉の 2 人だけが出場者中で 36m を投げている。藤澤も今期は出場回数が少ないもののポテンシャル的には優勝を狙える。この種目の表彰台独占は間違いない。

ハンマー投

菊地 晃一 (4)
佐藤 敬直 (4)
今泉 卓真 (3)

今泉が秋田県チャンピオンとなり調子を上げており、50m を投げて優勝するのは確実だ。続く佐藤、菊地も十分に入賞する力を持っており、ここでの大量得点が総合優勝のためには必要となってくるだろう。

やり投

藤澤 鐘吾 (4)
落合 裕規 (3)
杉本 和志 (1)

杉本がすでに 60m を投げており、実力を出せば優勝できる位置にいる。藤澤はもちろんのこと落合も体調が整えば十分入賞できる力がある。特に、壮行会で全部員をもらい

女子

100m

- 酒巻 貴子 (4)
- 脇坂美穂子 (4)

脇坂は、昨年の七大戦でシーズンベストを大幅に更新して3位に入っており、今大会もその再現を期待したい。酒巻は、本職は走幅跳であるが、そのスピードを買われて100mに出場する。決勝進出の可能性は十分にある。

400m

- 脇坂美穂子 (4)
- 須藤 彰子 (3)

こちら脇坂の決勝進出は堅いが、得点争いは熾烈になるとみられる。須藤は400mの経験は少ないものの、その分伸びしろは十分あり、自己記録を更新して決勝に進出してもらいたい。

800m

- 永井 瑞希 (4)
- 千葉絵里子 (2)

全国区の大会でも活躍する北大の只野(4)が別格の実力を持つ。それ以外にも2分30秒を切るタイムを持つ選手が多数いるため入賞ラインは厳しい。東北大の選手がどこまで迫れるかに期待した。

東北大からは永井と千葉が出場する。永井は本来の専門ではないこの種目での出場となったが長距離選手としてのスタミナを生かしたラストまでの粘り強い走りが入賞に

近づきたい。千葉は中距離でもスピードを生かした走りに期待ができる。

3000m

- 大淵 真波 (4)
- 小海 麻美 (2)

この種目3連覇中の名大小山(6)が強い。続く選手は実力が拮抗しており東北大の選手にもチャンスは十分にある。

大淵は今年の東北インカレでも10000mと5000mの2種目で入賞を果たしており、対校戦での実績も十分にある。力を存分に発揮したレースができれば表彰台が見えてくるだろう。小海は北大戦で2位に入るなど力をつけてきている。2人で協力してレースを作っていくことができればダブル入賞の可能性も見えてくる。

4×100mR

- 酒巻 貴子 (4)
- 脇坂美穂子 (4)
- 菊地亜加里 (3)
- 飛内 茜 (3)
- 星 朝香 (3)

阪大、北大の上位2チームは抜けているが、それに続く3位争いは団子状態とみられる。バトンパスの精度が明暗を分けるだろう。

走高跳

- 菊地亜加里 (3)

菊地一人の出場となる。今シーズンの持ち記録1m45を見れば、問題は無く得点できる

種目である。ただ、彼女は、走高跳に関しては記録が不安定であるため、油断は許されない。過去の七大戦では、複数種目において僅かな差で順位を上げ、点数を上げるなど勝負強さが窺われる。

巻だが、上位陣に食い込むためには更なる上積みが欲しい。

走幅跳

菊地亜加里 (3)

星 朝香 (3)

対校出場の菊地、星は共に北大戦において、それぞれ 5m03、4m53 の自己新をマークしている。また、飛内、酒巻も同大会で自己新を出しており、女子走幅跳は最も上り調子の種目の一つである。

星にとって走幅跳は専門種目ではないが、踏み切りの接地やリズムには、彼女の専門種目である 100mH の技術が活かされている。経験が充分とは言えないが、それだけに自己ベストの大幅更新も期待される。

今シーズンに入って 5m 台に乗り、記録が安定し始めている菊地は、跳躍パート長としての意地を見せたいところ。七大戦の一週間前までは積極的に走練習を取り入れ、本人だけでなくパート全体の走力を改善した。その成果が最も現れる種目が走幅跳であり、得点は当然、表彰台のどの位置に立ってくれるのが楽しみである。

砲丸投

菊地亜加里 (3)

酒巻 貴子 (4)

菊地が昨年に引き続き表彰台に乗れるか。得点ライン付近は団子状態。8m は越えていきたい。今季自己ベストをマークしている酒

文責 八木洋光(短距離)
川口亮平(中長距離)
野崎莉代(跳躍)
長谷川翔平(投擲)

#副務からのお知らせ

<OB 通信の電子メールによる配信について>

OB 通信の電子メールによる配信を実施することが平成 19 年度秋季三秀総会において再承認されました（平成 15 年度秋季三秀総会においてすでに承認されていました）。電子メールによる配信を実施する理由は以下のとおりです。

- ① 年間 30 万円以上かかる郵送費を削減できる
- ② 迅速に情報・連絡事項を送信可能
- ③ 送信回数に制限がなく、より頻繁に配信可能
- ④ データ類（画像、動画など）も配信可能

電子メールでの配信をご希望の方は、以下のメールアドレスに氏名、卒業年度を明記し、その旨をお知らせください。後日、副務より確認のメールをお送りします。お知らせをいただかなかった方には、引き続き紙面で配信いたします。

☆OB 通信電子メール配信希望の連絡先

Mail:hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp

<副務のメールアドレスの移行について>

長らく、副務のメールアドレスとして hukumu_tohoku@yahoo.co.jp を使用してまいりましたが、ホームページ上で安易に公開したことなどにより、多数の迷惑メールを受信するようになり、OB・OG の皆様からのメールとの選別が困難になっております。そのため、OB・OG の皆様からのメールが、迷惑メールとして誤って消去されてしまい、住所変更などの情報が確認できないという問題が生じています。副務では、OB 通信の電子メール配信のために、今年新たに別のメールアドレス hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp を取得しましたので、今後はこちらのメールアドレスに移行いたします。三秀会に登録されている情報に変更があった場合なども、すべて新アドレス宛てにお知らせください。

☆移行前(旧アドレス) : hukumu_tohoku@yahoo.co.jp

→移行後(新アドレス) : hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp

<全国七大学対校陸上競技大会ご来場の際の注意>

今年の七大戦は、地元・宮城陸上競技場での開催ということで、例年より多くの OB・OG の皆様をご来場されるかと思いますが、会場には一般用駐車場が設けられないとのことです。ので、自家用車でのご来場はご遠慮くださいますよう、よろしく願いいたします。

#七大学対校陸上競技大会 OB・OG 交歓会についてのお知らせ

1. 日時 平成 20 年 8 月 2 日(土) 18 時 00 分より 2 時間程度
(19 時開始になるかもしれません)
2. 場所 仙台サンプラザ <http://www.sendai-sunplaza.com/map/map-2.htm>
〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 5-11-1
TEL.(022)257-3333/FAX.(022)257-3331
JR 仙台駅東口 徒歩 10 分 JR 仙石線榴ヶ岡駅 降りてすぐ
(競技会場の宮城野原陸上競技場より徒歩 5 分です)
3. 会費 6,000 円

出席をご希望の方は、岩松幹事(H 元年卒)まで至急ご連絡ください。

<連絡先>

岩松正記 税理士行政書士事務所
〒980-0801 仙台市青葉区木町通 1-3-28
Tel : 022-223-4302//Fax : 020-4624-5773
Handy-P : 090-7937-1022

#編集後記

今号では、全国七大学対校陸上競技大会の各種目の見どころをお伝えして参りました。記事の執筆と編集に協力して下さった院生の先輩方には、この場をお借りして御礼申し上げます。

また、お伝えしたとおり 8 月 2 日には仙台サンプラザにて OB・OG 交歓会が開催されます。オープンの部を終え、対校の部を翌日に控えての開催となります。大会同様、交歓会の方でも多くの OB・OG の方々のご来場をお待ちしております。

文責	八木洋光	川口亮平	野崎莉代	長谷川翔平
編集	八木洋光	鈴木雄輔		